

# 次世代漢方へ

日本東洋医学会名誉会員

鹿野 美弘

## 私の漢方事始

小学生の頃、薬局で調剤中の父親の手元を覗き込んで、あれこれ、あれこれと訊くと「漢方薬」と

の生理活性の研究をする

京都大学大学院の時、父の急死で退学し薬局を継ぎ、2年後に復学して木島正夫教授に師事した。

木島教授は組織形態学(アナトミー)による生薬鑑

## 昭和の泰斗の下で

定學の泰斗であったにも関わらず、不遜にも「生薬の真贋鑑別は中国の産地へ行けば分かる。それよりも生薬は薬のだから作用の研究をやるべきだ」と言っ私に、生薬

木村康一、木島正夫両京大名誉教授、養育重昭先生ら多くの学会の先輩、また国中衛生試験所(現・国立医薬品食品衛生研究所)の原田友部部長の招きで厚生省漢方エキス研究班員としてマル

漢に関係した。養育では後藤賢、永井吉壽、小城忠治、橋本和男、長尾吉宏、中井康雄の各氏、薬草栽培では水谷ささや奈良の福田さんら、同業者として嶋田康夫博士など、さかたに師の順太堂

薬廠・必安研究所の許可

## 医療用漢方エキス製剤の課題の解決

医療用漢方エキス製剤の50年間は大きな苦闘の臨床試験とも言え、漢方医療に対する国民的な認識は改善され、多大の成果を上げたといえる。

一方、①古来の薬物(散、丸等)とエキス含有成分上の相異、特に散、丸剤とエキス剤の相違

はEIBMを求められ、薬効再評価も未達成で30年経過、さらに②一般用医薬品第2種医薬品を産医師の診断、処方薬とする行政処置の是非問われる五重苦を医療用漢方エキス製剤は負っている。

そして、この50年、30年を機に検証することが将来の発展のために有益である。願う。

その1は、日本漢方古方派、後世方派、各派や中医学(公認、狭義)を弁証論的統合した新らしい伝統医学体系の構築である。

## 局方生薬の課題

その2は、エキス剤と古来の漢方薬物の補正調剤

日局生薬家系はエキス製剤の原料が粗悪化しない適正である。含量規格が加えられた局方生薬が増え、見方医学の科学化が推進されたという印象がある。さらに企業は生薬品質責任を背負う。

しかし、その業態は確かな臨床効果は、古来の経験的鑑別に従い、確かな生薬を選別し、使用する上で保証されることを無視し、製剤原料とするために古来の劣悪品を局方規定で保証している。その結果、本来の漢方医療の用薬上の障害となった漢方がある。その例は寫



写真1 ウェブサイトでは講義の動画も配信



写真3 バックされた煎じ液

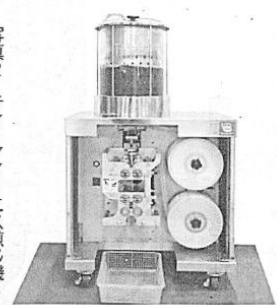


写真2 ティ・アイ・エス煎じ機



写真4 文火薬々

薬局は本来、門前型でなく、調剤も一般医薬品の販売も行つ町の医薬品センター」である。特に薬剤師には、対症療法でない個々の漢方医学、生薬の品質や薬能、配合薬性などに対する正しい知識の習得に努めてほしい。

## 薬局におけるプライマリケアと漢方

根、山菜類、黄耆、桂皮、牡丹皮等数多い(詳細はサイトの「動画」参照)製剤原料に備わっている局方生薬家系を古来の漢方薬物の品質評価に準じて点検考慮した整備が求められる。

薬高、家庭用のフライマリケアでは個々の医学、有機的総合性として人体の病理をきたる伝統医学の価値は高い。それを生かすためにはエキス製剤と病を漢方全体の疑似漢方医療に対して、伝統医学(日本漢方、中医学等)も旧来の形から脱皮して対応していくことが必須

薬高は本来、門前型でなく、調剤も一般医薬品の販売も行つ町の医薬品センター」である。特に薬剤師には、対症療法でない個々の漢方医学、生薬の品質や薬能、配合薬性などに対する正しい知識の習得に努めてほしい。

またエキス剤漢方を機に本来の漢方診療を始め、医師の生薬配合処方の調剤を受けるため、薬局では賦形剤不要、成分揮散なしで簡便化された煎じ機(ティ・アイ・エス)や、家庭用の煎じ器(文火薬々)を活用し、生薬の劣れも含め患者利便を配慮した対応が望まれる。そのためにも薬剤師は漢方医学、生薬の品質や薬能、配合薬性などに対する正しい知識の習得に努めてほしい。

談、助言が最も活躍する分野であり、漢方エキス製剤は大幅な改善があれはプライマリケアの第2種医薬品として十分活用できる。

またエキス剤漢方を機に本来の漢方診療を始め、医師の生薬配合処方の調剤を受けるため、薬局では賦形剤不要、成分揮散なしで簡便化された煎じ機(ティ・アイ・エス)や、家庭用の煎じ器(文火薬々)を活用し、生薬の劣れも含め患者利便を配慮した対応が望まれる。そのためにも薬剤師は漢方医学、生薬の品質や薬能、配合薬性などに対する正しい知識の習得に努めてほしい。